

人口と高齢化に関する国際国会議員会議 (IPCA) フォローアップセミナー

経済的に活力のある健康長寿社会の実現を目指して



小沼士郎氏

鈴木隆雄氏

小田嶋文彦氏

6月25日(水)、JFPF事務局を務める公益財団法人アジア人口・開発協会(APDA)の主催で「人口と高齢化に関する国際国会議員会議(IPCA)フォローアップセミナー」を都内で開催いたしました。

セミナーは、増子輝彦 JFPF 副会長・APDA 理事の開会挨拶に始まり、日本における高齢対策について産・官・学を代表し、小沼士郎・内閣官房 健康・医療戦略室 企画官、鈴木隆雄・独立行政法人 国立長寿医療研究センター研究所長、小田嶋文彦・味の素株式会社 健康ケア事業本部理事から講演をいただきました。

小沼氏からは、健康長寿社会の実現に向けて進む本分野の新技术・サービスの基盤整備を行い、今後日本の基準が世界の基準となり、それに基づいたビジネスによって日本が世界に貢献し、持続可能な健康長寿へのモデルを確立するという政府の取り組みが紹介されました。

また鈴木国立長寿医療研究センター研究所長は、日本の高齢化の特色として、後期高齢者(75歳以上)が著しく増えるという点を指摘しました。現在は、前期高齢者(65~74歳)と後期高齢者(75歳以上)の割合はほぼ1:1ですが、2030年には1:2と、後期高齢者がおおよそ2倍になると予測されます。前期高齢者の健康は近年劇的に改善され、この30年で健康度、就労意欲も上がり、社会参画は確実に増加しています。しかし今後、どうしても健康を維持することが難しくな

り、介護の可能性が高まる 75 歳以上の後期高齢者が増え、また後期高齢者では、認知症の罹患率も増大します。その対策として、身体の運動機能と認知症が深く結びついていることから、身体の運動機能の改善によって認知機能が向上したという研究データと、簡単にできる、頭を使いながら体を動かす方法が紹介されました。

次いで、味の素株式会社の小田嶋氏からは、鈴木所長の研究に関連し、高齢化に伴い食事によるタンパク質合成が弱くなることで筋量が低下することに着目し、栄養ケアと運動ケアが不可欠であるとして、筋量・筋力が低くなるサルコペニアの予防、ロコモ予防に企業として取り組む啓発活動が紹介されました。

参加した高齢化関連団体、企業の方々からは、非常に学ぶところ多く、またビジネスの参考になったとの声を多くいただきました。また、このような内容でセミナーを継続してほしいとの声も多数寄せられました。

参加 JPFP メンバーの声



増子輝彦 JPFP 副会長

高齢化で最先端を行く日本がどのように対応していくのか、世界が固唾を飲んで見守り、日本の経験を良き教訓としようという声が上がっています。高齢化に伴う様々な問題にどのように対応していくのか、私達はまだはっきりとした答えをまだ持ち合わせていません。しかしこれまでのような既存の考え方だけではこの問題に対応できないということは、皆様すでにご存じの通りです。私達 JPFP は、超党派でこの問題に対応するために研鑽を積んでいるところです。（開会挨拶より）

北村誠吾 議員

本日、ロコモの予防について教えて頂いた事柄を実現し、産学官の連携を強め、長寿を楽しめる社会の実現に向けて取り組んでいきたい。



櫻田義孝 文部科学副大臣

現在核家族化が進み、高齢者が一人で家に住む老人一人世帯が増えてきている。しかし、もういちど、各世代の家族が一つ屋根の下で暮らせるような大家族制が見直されてもいいのではないかと。

* セミナー後は、生方幸夫 JPFP 副会長の乾杯のご発声のもとレセプションが行われ参加者のさらなる交流が深められました。



今後とも、皆様からのご指導を賜り、より良い事業実施を目指して努力してまいります。